

## 【学年・教科・単元名】

6年生 社会科 当事者としての政治をめざして

～人との出会いを通して政治をより身近に～

## 【経緯】

社会科で政治分野の学習を行う際、子供たちにとって政治が身近ではないという現状がアンケートから明らかになりました。どうすれば子供たちが当事者としての政治を身近に感じることができるかを考えた際、「政治に関わっている人に実際に会ってみたい」という子供たちの思いから、市議会議員と対談することになりました。

単元を実施するに当たって、市議会議員と事前の打合せをした際に、大切なこととして、子供自身が身の周りのことで何に困っているのかを見つけることであるとの意見がありました。そのアドバイスを受け、まずは子供自身の身の周りの困り事を見つける時間を設けることにしました。さらに解決策として、オリジナルの政策を考え、市議会議員に提案するという流れで単元を構成しました。

## 【取組の実際】

### ①単元序盤

まずは、子供自身が、日常生活の中で感じている困り感について焦点を当て、生活を見つめる時間を取りました。子供達からは、自分自身の困り感として、「背が伸びない」「友達関係が難しい」「近所のバスの本数が少ない」などの意見がありました。また、自分の周りの環境としての困り感として、「本屋さんが少ない」「映画館などの娯楽施設が少ない」「ずっと安心していられる場所が欲しい」など意見が出てきました。それらの中から、最も自分が解決したい困り事を選び、オリジナル政策作りに取り組みました。その際、5つのポイントでオリジナル政策を作りました。

1. 社会問題(困り事)の発見【社会問題への関心】
2. なぜ、問題(困り事)になっているのか?【社会問題の要因】
3. 解決すると、どんな影響(良い・悪い)があるのか?【影響の予測】
4. それでも解決した方がいい理由とは?【社会問題に対する判断】
5. 問題へのオリジナルの解決案とは?【解決策の提案】

### ②単元中盤

市議会議員の方との対話会を行いました。当日は、広島県の4市(安芸高田市・庄原市・竹原市・府中市)の市議会議員4名を招聘しました。まずは、市議会議員と子供たちとの距離を縮めるため、市議会議員の政治に対するそれぞれの思いを10分ずつ話して頂きました。その後、8人ずつのグループに分かれ対話会を行いました。子供たちの考えた政策を市議会議員に提案し、その後、市議会議員の方からコメントをいただき、政策の改善に活用しました。



【取り組み後の子どもたちの姿】

・授業後の子供たちの感想として、「政治のことを考えたり、教えてもらったり、議員さんに聞いたりして、政治ってすごいな、よく考えたら面白いななど思えるようになった」「政策を提案して、目的を考え直すこと、目的を再確認すること、対象となる相手（それが必要な人）を考え直すことが大事だと気付いた」など、政治に対するイメージが変化した子供が 32 人中 30 人となりました。